

# 消防関係者との意見交換会 会議録

日 時：平成 29 年 11 月 8 日（水）18：30～20：30

場 所：総合体育館 1 階 多目的室

出席者：

|                    |          |        |         |
|--------------------|----------|--------|---------|
| <u>千代田消防団</u>      | ( 7 名)   | 団 長    | 山 川 明 彦 |
|                    |          | 副 団 長  | 鈴 木 唯 夫 |
|                    |          | 副 団 長  | 将 田 茂   |
|                    |          | 第1分団長  | 宗 川 高 大 |
|                    |          | 第2分団長  | 大 澤 喜 幸 |
|                    |          | 第1副分団長 | 茂 木 丈 久 |
|                    |          | 第2副分団長 | 高 橋 邦 彦 |
| <u>千代田町女性消防協力会</u> | ( 4 名)   | 会 長    | 坂 本 美知代 |
|                    |          | 副 会 長  | 小 寺 晴 美 |
|                    |          | 副 会 長  | 田 中 輝 美 |
|                    |          | 会 計    | 生 駒 来 未 |
| <u>千代田消防署</u>      | ( 5 名)   | 署 長    | 小 貫 裕 康 |
|                    |          | 署長補佐   | 高 際 靖 浩 |
|                    |          | 署長補佐   | 田 島 行 洋 |
|                    |          | 係 長    | 増 田 攻   |
|                    |          | 係 長    | 大 輪 昌 芳 |
| <u>千代田町役場</u>      | ( 2 名)   | 総務課長   | 椎 名 信 也 |
|                    |          | 防災管財係長 | 大 谷 吉 伸 |
| <u>千代田町議会</u>      | ( 1 2 名) | 議 長    | 襟 川 仁 志 |
|                    |          | 副 議 長  | 高 橋 祐 二 |
|                    |          | 議 員    | 青 木 國 生 |
|                    |          | 議 員    | 細 田 芳 雄 |
|                    |          | 議 員    | 柿 沼 英 己 |
|                    |          | 議 員    | 小 林 正 明 |
|                    |          | 議 員    | 川 田 延 明 |
|                    |          | 議 員    | 森 雅 哉   |
|                    |          | 議 員    | 大 谷 純 一 |
|                    |          | 議 員    | 橋 本 和 之 |
|                    |          | 議 員    | 酒 卷 広 明 |
|                    |          | 議 員    | 大 澤 成 樹 |
| <u>千代田町議会事務局</u>   | ( 2 名)   | 局 長    | 田 村 恵 子 |
|                    |          | 職 員    | 安 西 菜 月 |

- 
1. 司 会 酒巻議員
  2. 挨拶 襟川議長  
山川消防団長
  3. 意見交換 座長：襟川議長

## ① 水害について

大谷議員：先日の台風で水没、川の越水等で被害を受けたと思うが、署長、団長で被害の把握している箇所を教えてほしい。

山川団長：消防団としては朝 6 時召集で各班 3～5 名で出動し、赤岩あたりで床下浸水が 9 時頃にあつて消防車出動。そこは大雨が降ると冠水する所だが、団長自宅前も冠水し車が 2 台動けなくなっていた。その後、雨の止みかけに 10 時～11 時頃に中島で床下浸水になりかけているという事で、消防団のポンプ車を差し向けて民家の庭先の水を排水した。

小貫署長：台風関係だと 4 か所対応した。その他に町内で 8 か所把握している。町内だと赤岩 5 か所、福島 1 か所、下中森 1 か所、木崎 1 か所という事で道路等含めてだが大雨時に水がたまる場所を把握して、注意報・警報が出ると署員が通行できるかを確認している。

大谷議員：中島の人から言われたが、水門が開かなく前から人力では開けられないため今回も開かなくてせき止められる形で越水したと。国が管理しているもので我々も町を通して要望しなければならぬが、不具合な箇所等あったら言っていただきたい。

小貫署長：水門の把握までは申し訳ないがしていない。

襟川議長：水門が開かなかつた原因はわかるか。

大谷係長：国交省から新谷田川の排水機場の運転開始が午後 7 時過ぎでその後断続的な運転をしていたと思っている。ただ、翌日の朝に越水し床上床下浸水をしてしまった状況。

柿沼議員：前議会では、千年に 1 度の対策と言ってたが、今年台風 21 号で洪水が出てしまった。市街化が進むと短時間で飲み込むような災害用の貯水池が必要なのかと思う。国等の支援がないと出来ないが、近くでは西邑楽高校前にある。本町も貯水池等の整備を進めることが中長期的な課題として上がってくるかと思うが、総務課長いかがか。

椎名課長：今回の台風 21 号では直前の長雨が続き、太田・大泉方面から多量の水が流れてきた。大谷係長が話した通り、新谷田川放水路に強制排水ポンプがあるわけだが、国交省のテレビカメラが付いていて水量を把握して運転させることになっている。利根川の水量がどの程度だったか確認はしてないが、水量によっても逆流等のケースもあり排水ポンプを回した浸み込みが悪かった。越水については 2 回目になり、3 年位前に 1 度あった。今まで無

かったことが起きてきている。柿沼議員の遊水地・貯水池が必要ではと言う事だが、なかなか難しい問題である。大泉のエンゼル保育園の南にあるのは開発によってできたもので、大きな事業が無いと出来ないかと思う。また、今まで越水がなかったところで起きているので、国にも相談・協議が必要かと考えている。話は変わるが、栗橋の国交省の管内で大規模洪水に係る協議会が今年の 7 月に設立された。1 都 4 県が対象になっていて、本町も利根川左岸で対象である。先ほど千年に 1 度のハザードマップの地図が出たわけだが、それに基づいて本町においてもハザードマップの作成が喫緊の課題という事で今年度中には作成する。住民には十分に周知を図っていきたい。

柿沼議員：議会と行政でのやり取りを消防団の方はどう思うか。水害に備えてゴムボートを配置したらどうか。板倉消防団や明和消防団はゴムボートが水害対策用で置いてある。役場は検討しますという事で、千代田消防署に組み立て式の物が配備してあるのでと言うが、それについて消防団の方はどのように考えるか。

山川団長：ゴムボート装備と言うことで、私も消防団に入って 20 数年で、台風 21 号のような被害時の出勤もまるっきり初めてだったがゴムボートが必要かは、まだ分からない。ただ、板倉等々であると言うのはもともと水が出る場所で上げ船がある地域だからだと思う。本町も数か所水が出たが団員の情報だと膝より上には上がってない状況で、範囲的にも田んぼと民家の境で田んぼに近い側の庭先に水が溜まったという事だった。脱出・救助に必要なかという事では必要ないかなというのが今の認識である。

坂本会長：私事だが、10 月 23 日大雨の日 7 時～8 時頃主人の運転で、身の危険を感じたがどうしても仕方なく出るようになった。普段の幹線道路通らずファミマの所の田んぼ道を近いから通った。まさか冠水していると思わなかったが、車の半分くらい水が来た。もし車が止まったら水が上がってきてドアも開かなくて命の危険もあるなと思った。前に数台あって田んぼの藁が浮いていた。もし止まってしまったらどうしたかと思った。本町にあるかわからないが大泉・太田は冠水していると J アラートではないがそういうのが鳴ったという。本町は PTA とかそういうのはわからないが、そういう情報はなかったらしい。そんな時に出る人は普通いないのでどうしても出なくてはいけなかったのもそんな経験をした。住民としたら幹線道路でなく、普段通らない道のどこが冠水していて、冠水するのかかわからないので、住民対象に意見を聞いてもらってここが冠水するとか危険だとか通行しない方がいいとか分かっていたら通らない。

橋本議員：先程の坂本さんのお話し、1 度冠水したところに次はガードを置くとかの政策はとられるのか。三林からくるジョイフルまでの所も 1 度冠水したら早めにガードが閉まるようになった認識である。木崎が冠水していて通ったが、行けると思ってでも危なかった。そうい

う所はわかると意識して閉鎖する策はとっているのか。

椎名課長：台風 21 号の関係は選挙開票終わって役場職員も初期動員という事で 10 名程残って徹夜でパトロールして町内各所で冠水が見られたようだ。中島地内で床上床下浸水もあったことから第 1 号配備をした。午前 4 時頃だったと思う。人員が 20 人に増えて、役場にある土嚢や消防署にある土嚢を職員が持っていき多少なりとも防いだ。橋本議員より話があった通り野辺の前が冠水し、役場職員がバリケード持っていき通行止めにした。そのほか下中森、赤岩県道、早川スタンド、それらは県道なので土木事務所に話し対応した。警察からも通行止めにしてよいとの話しだったので、役場職員と土木事務所から委託された建設業の職員で交通整理をした状況が朝方まで続いた。冠水箇所を全部補うのは困難な状況だったと思うが、主要箇所は交通整理した。

小林議員：中島の件で、取水口名わからないが古海に近いヒグチって言っていたが、水位上がって中島地区の田代さん田村さん宅近辺が溢れて、田代さん宅は月曜日出勤できなかった。その原因は新谷田川の二ノ関が動かなくて排水が滞ったためで少し開いていたところもごみ詰まり、その近隣も泥水が来ていて出勤もできなかったという。今後その堰の管理やメンテナンスはどうするのか。集中豪雨に備えてその辺の見直しをしなくてはいけないし、課長から話しが出た消防団の排水したところも数件あるし、3 年前と同じようになっている。なぜ排水が出来なかったのか状況がわかったら伺いたい。

高橋副分団長：現場に出ていたが、かなり庭先まで浸水していて中に車のある家は不便だったと思う。消防団としては、消防署、行政と連携して平日だったが、各班数名の待機という形をとり現場にも割り振ってできたと思うが、同じような時には今回の事を踏まえて団員で協力していく形で防ぐ動きが取れればと思う。

襟川議長：迅速な対応で大丈夫だったという事で。今後はもっと大きな台風で被害が出る可能性もある。今回皆さんに聞いたことを議会等で活かしていければと思う。

## ② 人員確保について

山川団長：消防団では団員が 103 名欠員なしで名簿上は全員そろっている状況。昨今の景気状況で職がなくなった等々あり消防団活動に来る余裕がなくなった方もいる。また、若い人たちが年代の違う人たちと一緒に何かするのが不得意なのか、若い人に参加してもらえない。先日、町で秋季点検あったが雨だったので表彰式だった。前から議員も見ていただいてわかる通り、明和町も 103 名だが、ほかの消防団と比べると出席者が少ない。館林地区消防組合の消防団もそういう状況で、消防団活動に参加しやすい状況をとっていきたい。前々の団長さんも考えてはいたが打開策はなく、他消防団の話を聞くとお金がかかる話であるが、

活性化事業などを行っていて、本町もいくらかでも活性化事業をやるような形で消防団員とその家族を慰安できるような形が出来れば地域の絆も出来るのではと思う。やり方はいろいろあるので、この場では一つと言うわけにはいかないが、そういう形でご協力いただけるのであれば消防団活性化事業のご協力をお願いしたい。人員確保についてだが、近所に住んでいる家の繋がりが薄くなっている。誰がどこにいるのか、同級生がいたはずけどなどと言う状況があり、若い人が町内にいるかいなかかわからない状況が続いている。若い人がどこに住んでいるか、消防団活動をやってもいいかをわかるような状況を作れるような町の制度として何か作っていただければと思っている。邑楽消防団が特にそうだが、役場職員が数名入ってもらっていて、平日の火災等々での出動時は大変助かってる。邑楽町は 121 名中 1/3 位が役場職員。昼間の火災出動とかだと役場が少なくなり大変だという話を町長もしている。昼夜に出てきてくれる人が居ないので、本町も役場職員が入ってもらえれば助かる。

柿沼議員：昼間の火災時の役場職員は戦力になるので、総務課長も聞いているから実現になると思う。消防署に聞きたいが、企業の協力も必要かと思うが協力事業所については表彰制度もある。団長が言ったように家族の協力がなければ出来ないのも、家族の慰安などお金のかかることだが議会としても要望して行くべきかなと思う。家族慰安事業で東京ディズニーランドとかもいいと思う。家族の理解、企業の理解で消防団に加入・活動していくという環境整備の方法があると思う。企業の協力を得るための方策が必要だが、消防署はどう考えるか。福利厚生については議会として皆さんと検討したいと思う。

襟川議長：消防団員はサラリーマンが多いので企業の理解が必要だがそういった企業の表彰をしている町はあるか。

小貫署長：群馬県消防協会で毎年 1 事業所だが千代田からも推薦をして表彰してもらえるような体制をとっている。消防団員のいる事業所に対して県消防協会で表彰している。千代田からの打診もしている。

柿沼議員：邑楽館林の企業に PR していったらと思うが。

小貫署長：PR 出来るようにしたいと思う。

酒巻議員：以前、テレビか新聞で OB の消防団員が活躍しているのを見た。OB の消防団員が活躍している地域はあるのか。前線ではなく後方支援でホースを移動したり交通誘導したりとかで活躍している地域もあるかと思う。人員確保という事で、働き方改革で火災災害はいつやってくるかわからないので、OB の活用の検討は考えているか。近隣の大泉町では女性消防団員がいて、女性なので前線と言うより後方で災害にあった方の心のケアだとか対応していると思うが本町消防団も取り入れて行くのはどうか。

襟川議長：機能別消防団でそういった話が出たが、OBの方になってもらうという事で組合の方はどのように進んでいるか。以前そう言った方向で進めるという話が出ていたと思うが。

田島署長補佐：消防本部警防課担当の事だが、消防協会の機能別消防団と言う事で実施していくのではないと思う。徐々に増えている状況にあるが、当組合の警防課でも進めているがまだ完全にそろってはいない。

襟川議長：女性消防団はわかるか。

田島署長補佐：消防団組織自体が自治体の管轄が多いため、自治体で消防団を立ちあげる状態である。

椎名課長：消防団員の確保という事だが消防庁から取り組みをしていただきたいというような文章が来ている。今まで在住の方が消防団員になっていたという事だが、在勤者についても加入できるような条例改正をしていただきたいという内容で通知も来ている。大学生等の加入、先程からでている女性の加入促進、公務員の加入促進、身分の取り扱いについての中で定年制の撤廃についても必要に応じて条例改正を検討してくださいとなっている。年額報酬の引き上げも消防庁よりきている。群馬県においても群馬消防団応援の店というのをやっていて、ライス大盛無料や購入金額の5%割引とかそのような取り組みも実施している。本町でも不足する事があれば、このような取り組みを考えて行きたい。また、家族慰安会の予算の関係だが、消防費中の非常勤消防費の予算が計上されていなく、他の館林・板倉・明和・邑楽については若干計上されている。いつから計上されてないかは不明だが要望があれば取り組みはしていきたいと考えている。太田消防団・大泉消防団についても消防団員の家族慰安会を今年度実施していて、吉本新喜劇を呼んで演芸大会をやっている。千代田消防団についても予算化が図れるように取り組んで行きたいと考えている。

大澤議員：先ほど団長から話しがあつた、役場職員が団員と言うことで調べてみたが、現地採用をしているという内容が書かれている市町村もあつたようだった。役場で組織をつくり昼間の対応をしているような消防団もあるようだ。私もこの年になるまでに声を掛けていただいたこともあつたが、タイミングが合わなかった。勧誘方法は団員が新たな団員を誘うしか方法がないのかこうゆう広報活動しながら団員の確保をしているのか聞きたい。

山川団長：勧誘については今の所は各班(8班)に任せていて、各班で各お宅に行き適任者を探す。1-1なら赤岩1、2、3区から探す。地元の人間じゃないとわからないのでその形をとっている。

大澤議員：ちなみに17区はどこに入るのか。

山川団長：17区は上中と萱野に分かれているが色んな事情があつて17区が出来たと聞いている。東小管轄で子ども伝いに勧誘する事がある。知人がいた方が良いでしょうという事で上中2-1、2-3どちらに行けますよという形をとっている。

高橋議員：人員確保である班長が毎年明けにこの地域に若い子がいないかといっているという事は

地域の事が全然わかってないという事である。若い子がいないかではなく高齢者ひとり暮らしの人、足の不自由な人、そういう方々を消防団の人は把握しているか。火事・災害の場合に頼りになるのは消防団だと思う。真っ先に助けに行けるか、常に住民の方の事を考えているのかという事だ。消防団はサラリーマンが多く、夜中の火事は会社に行けなくなるから億劫だとなってしまうだろうが、本町に限っては商工会を通じて企業と連携して遅刻や欠勤の扱いをしないような連携が取れば若い人も入りやすくなるのではという感じがする。地元密着で活動してほしいし、若い子がいないかなではなく、区長さんや地元密着してほしいと思う。大変なのはわかるが、地元民が頼りにするのはどこの災害現場みても消防団の活躍である。

山川団長：消防団として、体育祭で消防団リレーと言う形で参加して消防団をPRする状況を整えさせてもらっている。リレーだから補欠を入れて5人、自分たちの地元テントに行ってお手伝える競技があれば参加してくれと体協の役員さん等々に顔が売れて協力的になってもらえるのではないかとこの形で始めた。地元の消防団員が誰なのかを住民に知ってもらえるようにしていきたいと思っている。

柿沼議員：明和町では産業祭にブースを作って消防団員募集のPRをしているがそのような考えは。

山川団長：そのような事も含めて消防団がPR出来るところでしていきたいと思っている。

襟川議長：人員確保についてはやめる人が次の人を見つけるという方法はそろそろ考えて行かなくてはならないと思う。地域で団員を見つける方法を地区で考えて行かなければならないと思う。みなさんからいただいた意見を参考にさせていただきたい。

### ③ 避難場所の確保について

川田議員：避難場所と言っても先程行政から話があったようにハザードマップを本年度中に再作成するという事で、どこにどのように逃げたら良いかという事について(1)で話したが、その辺の確認をしっかりと本年度中にできたらと思っている。

襟川議長：配っているのは、2008年のハザードマップである。水害対策用なので避難場所が載っている。地震などの災害時の避難場所はまた違うのか。

椎名課長：重複する所もある。

襟川議長：その辺がわかりにくい。避難所の役割もあるのでわかりやすくしてもらいたい。

将田副団長：避難場所を町民は知っているか。千代田町年間行事のカレンダーに載せていただきたい。

椎名課長：今現在もカレンダーには載っている。

将田副団長：わかる場所に載せてもらえると助かる。

高橋副団長：カレンダー裏の避難所とかは集会所とか学校関係とか目安になる場所の水害があった時と

地震があった時とわけてあったと思う。

小寺副会長：避難場所っていうよりも確保してからが女性消防のやるべき時なのかなと思うが、避難するほどの災害がないので危機感が無いと思う。女性消防の会議もそれほどやってないので、避難した後の事を会議で考えることも必要ではないかと思う。

柿沼議員：ハザードマップ見ると中学校は5mまでいくが、最悪を考えちゃうと消防署、消防団も手が出せなくなる。その対応はどのようになるのか打合せやマニュアル的なものは。

小貫署長：早めの応援要請をして自衛隊なりで空から救出していただく対応をとるようになる。

柿沼議員：三条とか見てきたときに館林からも応援が行ったというが、ゴムボートで救助していたことがありゴムボートの案を出したのだが、想定は実際にはされないのか。

小貫署長：消防署自体は通常のボート、ゴムボート所持はしている。それで対応して行けるかと思う。

柿沼議員：消防署監督下で消防団も行動するという事でいいか。

山川団長：実際は消防が中心で動くことになると思う。

小林議員：水害や地震もだが特に水害は水がたくさん来ると避難場所まで行きつけるかが問題で、近所で頑丈な家に避難する常総市でも見たが、隣近所との連携をPRし日頃から話し合う仕組みをできればと思う。避難場所の確保として、民間企業への協力依頼を議会としても行政としても消防署としても行えればと思う。燕市は避難場所としてパナソニックと提携している。消防署としての考えは。

小貫署長：避難場所指定は町側だと思う。

椎名課長：現在民間とは農協両支所、北海製罐、サントリーの4カ所を洪水発生時に指定して協定を結んでいる。燕市は避難場所としてパナソニックと協定結んでいる話もあるが、本年度中にジョイフルとも協定を結びたいという事で取り組んでいる。避難場所、救援物資等も該当すると思います。

大谷議員：もし夜間の場合はどのように考えているか。

椎名課長：そういったことも事業所等に話をさせていただきたい。

#### ④ 自主防災組織について

橋本議員：今週土曜の上中に自主防災組織が出来てからの会合あるが、内容は装備品を見せると言うが、消防団員を呼ぶべきか呼ばないべきか。地域の防災リーダーだから、婦人消防含めていて見本を見せるのも重要かと思うが人員確保もそうだが、仕事が1つ増えると手当はかわらないので皆さんに率直な意見を聞きたい。自主防災組織は町長もそうだが増やしていく方向でどんどん増えて行くと思う。自主防災組織を作るにあたってお金が出る。その一部を活躍してもらうための慰安にするとか消防団に出すとか私の考えだが、その辺も含め

て消防団の意見を聞きたい。

山川団長：自主防災組織ができるについて新福寺が早かった。消防署長経験者の茂木さんが居たので本部員何名か立ち上げに来てくれと言われて粉末消火器を配ったりなど盛大に行った。その後、あちこちで自主防災組織立ち上がった話は聞くが話は来てない。先日舞木地区ができて舞木消防団から声を掛けられているがどうしたらよいかと相談受けたが、地元の事なので地元の消防団で対応してくれと話した。自営業やサラリーマンが多いが地元事業には顔を出してくれと、それが PR になるからと話した。自主防災組織がどういうもので消防団との関わりがどこまでやったら良いかつかみどころがない。今後の課題になるのではと思っている。

鈴木副団長：新福寺立ち上げ参加したが、自分もどのように関わるかは分からない。自主防災組織を作ってもらえるのは良い事なので、参加できることがあれば参加したい。

川田議員：自主防災組織 16 区で 12 月 3 日に出来るが、立ち上げには区長、副区長、評議員などと地区役員の協力もあると思う。若い人、年寄り、動けない人を水害時などにすぐ救助に行ける体制をとれる民間の方々、消防署、消防団と一緒にリストと作るという事になるのかと思う。

将田副団長：私は参加した方が良いと思う。自主防災組織となると区長等も来ると思うのでそういった話してもらえばと思う。自主防災組織の設立あれば消防団員を活用してほしいと思う。

宗川副団長：私も参加した方が良いと思う。自主防災組織の中に OB が居ても良いかと。

大澤分団長：参加した方が良いと思う。11 区はあるか。

椎名課長：これからである。

大澤分団長：声がかかれば率先して参加し、一緒に活動する。

茂木副分団長：私も参加した方が良いと思う。自主防災組織とは何をするのかと、消防団が関わる事は何をしていけばよいのか。マニュアルではないが何かあった方が関わり合っていけるかと思う。

高橋副分団長：私が団員の時に福島地区に自主防災組織が立ち上がって、消防団の車両も新しくなったということでお披露目も兼ねて参加をした。福島地区に関しては、自主防災組織と交流を深めながら、消防団の活動の話をしたりしている。今後の展望の形では、福島地区はこないだ自主防災組織で図上訓練を行ったらしい。地元の消防団と自主防災組織で、何か災害があった場合に動けるようにしたい。消防団は団で動きがありまた違うと思う。OB の人たちは自主防災組織に入ってもらって、地区ごとに強固なものが出来ればと思う。

柿沼議員：団員の方から、なぜ自主防災組織があるのかというような意見があったが、これは大

きな災害が起きたときに近所の助け合いを組織化して大きな災害から逃れるということで、全国的にできている。県内でも組織率が千代田町は低い。議員の中でも何とかしようと何回か話し合われている。こういった中で、消防団の現役、OBを含めた形で取り組めば一気に進むのではないかなと思う。消防署の協力、役場の協力を得ながら是非消防団の現役の方々にも協力をいただければまだ設置していない場所も力強く進むと思う。

山川団長：新福寺や署長経験者の池田さんがいる上中森の自主防災の話聞いたときに、さきほど団の方から話もあったが消防団のOBが参加したらいいのではないかなという話もできたが、お年を召された方がほとんどで、もっと若い人が参加できるようなシステムを作らないと、なるべくよこのつながりができるように、例えば育成会に声をかけるとか、PTAに声をかけるとかそういったかたちで年齢層を下げていかないと、自主防災組織の意味合いがなかなかできてこないのかなと思う。消防団がそこに参加するのはいいことだと思うが、自分の親世代といってもひろがりがあんまりないのかなと正直思っている。ないよりはあった方がいいので、我々も参加していきたいと思う。若い人たちが参加できるようなシステムを議員の中でも話し合ってもらいたい。またそれが町の活性化にも繋がると思う。

森 議員：自主防災の役割だが、私が参加している認識としては初期消火、基本的な消火器の使いかたとか期限があるとかを教えてもらったり、煙の体験とかジャッキアップとかどういう方法があるのかを勉強させてもらう感じだった。最初に火事を見つけたときにどうすればいいのかという知識を共有していくのだと思う。それで消防団の方の到着を待つ間に何をすればいいか、また近所の方と声を掛け合ったりどこに誰がいるのか分かればと思う。私の地域も若い方があまりいないので知識を広めていくのにもっと多くの人が参加できる工夫も必要だと思う。

襟川議長：若い人に来てもらうような方策が必要だという事で、年に1回でしたっけ、訓練は。

椎名課長：何回でも大丈夫です。地区によっては1回しかやらないところもある。

襟川議長：炊き出しなどもあるわけだが、若い人がでてお祭りみたいにできればと思う。

田中副会長：鍋谷は立ち上げていて、その立ち上げの時に回覧板がまわってきたが女性消防の立場で参加した方がいいのかどうか迷って結局参加しなかった。今後またそういう何か訓練とかあったら積極的に参加しようかなと思っている。

生駒さん：私の方も特に今まで回覧板での情報を見て、やっぱり参加不参加を考えるとところではあった。今回の台風の件があり、やっぱり自主防災組織についても私たちができることがあればという意味では積極的に参加をしていきたいと考えている。

襟川議長：自主防災組織が舞木ができると9地区になる。これを全地区に増やしていこうという町の考えもあるし、議会としてもできていない議員の地区は議員に頑張ってもらって、立ち上げが目的ではなく継続していかんことが進むかということ。できてもそのあと活動がなかなかできていないところもあるので、そこも含めてみなさんでいろんな意見を交えながら活動できるように自主防災組織を立ち上げていく必要があると感じた。

## ⑤ その他

川田議員：消防署関係で緊急の連絡とか通信関係、署から団への連絡、団員同士の連絡はどうしているのか。

小貫署長：消防署から団への連絡は電話連絡をしている。団の方、班長へ連絡するが勤めている方も多いため、携帯が繋がらないこともある。現状としては、何か手段があればと思っている。

山川団長：消防団としても、消防署から連絡を受けて本部員が班長に連絡をしている。署長が言ったように班長が繋がらないということが多々ある。そういった場合は班長経験者や個人的に知っている番号にかけて確認するというような形をとっている。新型車両、ポンプ車が配備されるについて消防団用の無線機が車両につき携帯電話が3台、本部員に各1台ずつ携帯無線が配備された。火災現場等、狭い範囲だと通話ができるような無線機で、台風の際に消防署に本部員がつめていたのだが消防署から中島の水害現場までは電波が届かなかった。瀬戸井から五箇までしか届かなかった。結局電話連絡になる。署の方の電話で団の方へ連絡をする形をとっているが、署の電話回線が1回線しかないので、消防団の連絡で使っていると他で使えないという状態である。その辺も考えた方がいいのかなと思う。

小貫署長：電話が1本しかない関係もあって、館林消防だと携帯電話を消防団への連絡用に1台持っていて、電話で通じない部分はメールで一斉配信して緊急の連絡をとっていることもある。

襟川議長：大泉もメールでやっていると聞いたが。

小貫署長：災害のメールについては、館林本部の指令室から一斉で送信するが、事務連絡的なものは現状だとできない状況なので、それについては携帯電話1台あれば可能だと思う。

山川団長：消防団本部を今日もご覧いただくと、地区が偏っているのが分かると思う。他の消防団は各分団から必ず本部に上げるシステムがある。千代田町に関しては、それが今な

い状態。理由は分からないが、昔からだという。現実を見てみると西地区と東地区で1分団、2分団分かれているので人口の比率が全く合っていない。1分団が5班あって、2分団が3班、これを均等化しようとする、1分団を半分に割らなきゃなのかなと思っている。現在、1分団長宗川くんは東地区出身だが西地区の班長に連絡をしなければいけない。2分団長大澤君は西地区だが東地区の班長に連絡をとらなきゃいけないおかしい状況になっている。近いうちに改善したいなと思っている。2分団ある千代田消防団が3分団になると少し経費がかかってくることもあると思う。その辺の予算がかかるような時はお願いしたい。

閉 会 (20:20)

写真撮影